

**授業概要**

保育についてその理論と方法を学ぶことにより、「保育とは何か」ということを理解する。その際、保育の歴史や子ども観の変遷を概観しながら、子どもの立場を考慮した保育とはどのようなものかを考察し、子ども中心主義の思想を深めるようにしていきたい。また、保育の理論を幼稚園や保育所、および家庭や地域の子育て支援においてどのように生かしていけるか、さまざまな具体例を交えながら講義する。園の様子を紹介しながら、その根底となる原理を考察する。

**授業計画**

第 1 回	保育とは何か
第 2 回	保育のねらいと内容
第 3 回	欧米における保育の歴史 1
第 4 回	欧米における保育の歴史 2
第 5 回	欧米における保育の歴史 3
第 6 回	日本の保育の歴史 1
第 7 回	日本の保育の歴史 2
第 8 回	保育所保育と家庭的保育
第 9 回	保護者との緊密な関係
第 10 回	保育所保育指針と施設保育
第 11 回	発達過程に応じた保育
第 12 回	環境を通して行う保育
第 13 回	保育者に求められる専門性
第 14 回	生きる力の基礎を培う保育
第 15 回	生活と遊びを通しての保育
第 16 回	筆記試験の実施

**到達目標**

保育の歴史や子ども観を通して保育の理論を構築し、保育の本質を捉えながら「保育とは何か」ということを根底から考えることができる。また、保育の理論をもとにしながら、保育の現場がどうあるべきかを検討し、具体的な保育のあり方を考察することができる。

**履修上の注意**

テキスト『保育原理』を毎回持参すること。授業を通して「保育とは何か」ということを考え、子どもにとって望ましい保育とはどのようなものかを説明することができるように学習すること。遅刻は3回で欠席1回とする。

**予習・復習**

テキスト『保育原理』を事前に読んでおくこと。事後学習では、授業の内容について振り返ってまとめておくこと。また、保育の関心あるテーマについてはさらに図書館で調べたり、関連のある書物を読んで理解を深めておくこと。

**評価方法**

定期試験 70%、平常点 30%(授業参加、小テスト、小レポートの提出)で評価する。

**テキスト**

- 教科書名：『コンパクト版保育者養成シリーズ 保育原理』
- 著者名：石橋 哲成
- 出版社名：一藝社
- 教科書名：『保育所保育指針解説書』
- 著者名：厚生労働省
- 出版社名：フレーベル館